



事故ゼロを目指して ～再発防止から未然防止へ～



株式会社ミライト

1. はじめに

株式会社ミライトでは「なによりも安全を優先する」をスローガンに事故ゼロを目指し全社一体となって取り組んでいるところです。平成28年度に重大な人身事故が発生したことから全社を挙げて事故ゼロに取り組んでいます。30年度の安全に対する取組みとしては再発防止への対応は当然のことながら、過去の事例、事故から学び未然防止の強化に取り組みミライトグループ安全・品質基本方針（図1）にのっとり「事故ゼロ」を目標に日々取り組んでいます。

2. 事故防止に向けた取組み

(1) 安全パトロール

当社では安全作業が適切に行われているのかを確認するために、安全専任者等（日々）、会社幹部等、労使合同（四半期ごと）等により現場安全パトロールを毎月約3000件実施しております。

しかしながら、重大人身・設備事故の撲滅には至っていないことから、①自組織では当たり前のことも他組織の社員は気づくこともあり組織間をまたがったクロスパトロールを強化する、②クロスパトロール実施にあたりパトロールのチェック内容を見直し、統一化を実施、③「安全の日」等の機会を捉え集中実施、④施工場所の特定、進捗状況等を把握し効率的かつ確実にパトロールが行えるシステム化の検討、⑤過去に事故を発生させた組織、事故が発生した類似工事等を対象として、パトロールを実施する。このようなパトロールを強化することにより、現場に存在する「不安全行動」、「不安全な状態・環境」を1つでも多く見つけ出すことで、作業員への安全への気づきを促進させるとともに、重大な人身・設備事故の未然防止の定着化を目指します。

(2) ミライト安全作業標準の策定

平成28年度に重大な人身事故が多く発生しました。

ミライトグループ安全・品質方針

ミライトグループ経営理念の下、ミライトグループに働く全ての人が、会社存続の生命線である「安全・品質の向上」を大切にす組織文化を創る

- 「安全・品質の向上とコンプライアンスの遵守」を大切にし、お客様からの「安心と信頼」に応えるミライトグループブランドを確立する。
- 「安全第一」を合言葉に労働安全衛生活動を展開し、人間尊重の社風を築き、事故を撲滅する。
- 標準化された「生産活動」と、日々の「改善活動」を展開し、納期を守り、お客様の期待を超える製品・サービスを提供する。
- 情報セキュリティの重要性を認識し、リスクに適切な対応を講じ情報資産を保護する。
- 法令を遵守し、社会的責任と自覚を持ち、モラル・マナーの向上に努め誇りを持って行動する。

図1 ミライトグループ安全・品質基本方針

事故原因については過去に発生した同様な事故の教訓（対策等）が活かされていない状況で、1つの要因として事故に対する原因究明、対策が発生組織に留まっている状況でした。そのため、「安全は全てに最優先する」全員現場主義をモットーに、同様な事故は「二度起こさない」、「絶対に起こさせない」ようにするために、重大事故発生時の発生組織にとらわれず「徹底的な原因究明を行う」、「全社で守るべき対策をたてる」、「対策が実施できているか安全パトロール等で確認する」ことで再発防止に取り組んでいます。

具体的には、①重大事故発生時に発生部門に関係なく有識者等を現地へ派遣し、徹底した原因究明を行う、②同様業務がある事業本部の施工部門、安全品質部門が参画した改善会議を開催しミライト全社で守るべき基本ルールを検討し、ミライト安全作業標準（図2）を制定しています。

他で起きた事故は、自分にも起きることを肝に銘じ、対策に取り組み、作業員1人ひとりが安全意識を高め守るべき基本事項（安全標準）を確実に履行し、再発防止と未然防止を図っております。

(3) 安全に関するデータの活用

安全に関する情報は情報発信するもの（事故情報等）と作業員の気づき（ヒヤリハット等）等の情報が数多く



図2 安全作業標準の一例

あり、この資産をしっかりと活用し事故防止等に役立てるため、安全関連の情報共有ツールとして『新安全情報システム』と題したプラットフォームを設け、「ヒヤリハット体験報告書」、「事故情報」、「交通事故情報」、「安全パトロール」、「安品情報」、「安全の道しるべ」、「KY活用シート」等のカテゴリーごとに情報を蓄積し、社員誰もが閲覧・ダウンロードでき、事故の未然防止のツールとして活用しています。

一例として、ヒヤリハット体験事例（図3）は人身事故関連約1万7000件、設備事故約7千700件、交通事故関連約6千600件、全体で約3万5600件を超える情報量を有するようになりました（2018年3月31日）。報告された事例は、労働安全衛生委員会の下部組織としてヒヤリハット検討分科会を開催し、統計データとして体験傾向の把握や事例個々の審議・検討を行い、『事故の未然防止』の対策が不十分な場合においては、作業手順書の見直しやリスクアセスメントの実施等、審議された内容は各組織にフィードバックされています。工事当日の天候や作業内容に応じたデータ検索等により朝礼時や作業指示書への記載による注意喚起、KY実施等に活用して、一件でも『事故を未然に防ぐ』ために活用の推進を図っているところです。

今後、収集データの見直しや収集されたデータの使いやすさを追求するとともに、タブレット等を活用した施

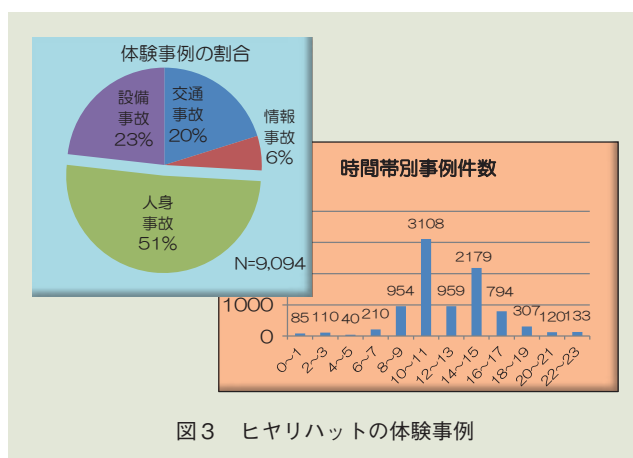


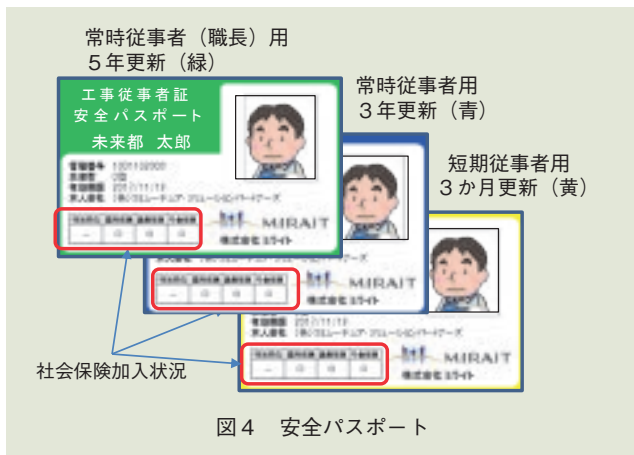
図3 ヒヤリハットの体験事例

工現場での観覧に必要な情報が見られるようIoT化についても検討を進めていきます。

(4) 施工従事者の資格制度

平成8年からミライトが施工する工事の全施工従事者の安全意識高揚と無資格作業者の工事従事の防止を図るため、新規入場者教育の強化と教育内容の標準化を目的に全施工従事者に対して「安全パスポート研修」を実施しております。「安全パスポート研修」の受講修了者には、「安全パスポート（工事従事者証）」を発行し従事者相互、パトロール実施者が一目で確認できるようにしています。

「安全パスポート」は3種類（図4）に色分け分類され、有効期間ごとの再研修により更新を行い、工事従事



者は、常時携帯をしています。

また、社会保険加入状況について、2017年10月2日より発行される安全パスポートから、社会保険加入状況の表示を追記する対応をとりました。

(5) 高所作業従事者の認定制度

○認定制度導入経緯

平成27年1月27日ミライト千葉支店、柏技術センターの作業員が柱上作業時に転落し重傷を負う人身事故

が発生しました。

平成26年度は12月に、埼玉で電柱からの転落事故、青森で脚立からの転落事故、1月に入り、栃木で感電死亡事故、埼玉で橋梁からの転落事故が発生し自社、他社において死亡事故、転落事故が連続して発生しました。NTT東日本様から「人身事故撲滅に向けた基本動作の徹底について（非常事態宣言）平成27年1月28日」が発出され、それを受けミライトで緊急安全大会を開催し、鈴木社長より「緊急非常事態」が宣言されました。

この緊急非常事態宣言を受け、人身事故撲滅に取り組んだ施策のひとつとして、高所安全作業者認定制度（図5）を導入しました。

導入については、4月にNTT事業本部に新たに安全推進室を設置し、NTT東日本様の協力を得て、平成27年5月25日に市川研修センターで認定を開始しました。

また、平成28年10月13日から市川研修センター内のNTT局内設備と類似した環境を整備しNW系作業従事者への認定も開始しました。



○認定状況

アクセス系は平成29年2月に、ネットワークは平成29年6月に全作業員への認定を完了しました。また、アクセス系の高所作業者認定については、初年度（平成27年度）の認定者数が多かったことから、今後の認定更新の平準化を図るため、認定更新を平成29年度下期より実施し、平成30年3月末の状況は下記のとおり。

部門	期間	回数	合格者	不合格者
アクセス	平成27年5月25日～平成30年3月末	198回	1,942人	※36人
ネットワーク	平成28年10月13日～平成30年3月末	42回	302人	0人

※アクセスの不合格者は高所作業車作業限定（梯子作業による高所作業は禁止）

○認定更新

高所作業者認定取得後、3年を経過した作業者を対象に平成30年4月期より平準化を図り、平成30年度は約800人の認定更新をする計画です。

3. 安全に対する気づきの醸成

安全施策はデスクではなく現場第一線における対策が重要と考え、安全に関する気づきができるよう安全の気づきカード（蜂さされ防止、熱中症予防）を作成するなど現場目線にたった対応策を行うことを心がけています。

(1) 安全品質部会ニュース

全社の取組み事項、その季節に合った注意事項、重篤な事故の再発防止等を目的にミライトグループで働く全作業員に伝える施策として安全品質部会ニュースを年4回発行（図6）。

(2) みまもりメール（風化防止対策）

事故発生時は、再発防止や注意喚起等の対策が行われるが、時間の経過とともに安全意識が薄れる傾向にあり類似事故が減らない状況にあります。作業者の皆さんに一目で危険意識が持てるよう、過去の事故事例・注意事項等をインパクトのある画像を作成し作業者の携帯端末に送り届ける事で、安全作業につなげています。また、発信する契機は過去の重大事故発生日等に送信する事で作業員へ気づきを促しています（図7）。

4. 交通事故防止施策

交通事故については年々減少傾向とはなっていますが、さらに事故防止に向けさまざまな取組みをしていますので紹介させていただきます。

(1) 安全運転動画版KY研修

実際の交通状況を再現した動画により危険と感ずるポイントを把握し、講師とのコミュニケーションを取りながら何が危険かを気づく研修を実施しています（図8）。従来の紙ベースのKYでは感じられないリアルな気づき、気づかない場合にどのような事故になるのかも体験できるため参加者はより安全運転に努めようという意識高揚が図れました（平成29年度約750名参加）。

(2) 自社で発生した事故映像画像

工事車両にドライブレコーダーを取り付け事故発生時に分析、運転者への指導に活用してきましたが、同様の



図6 安全品質部会ニュース



事故が繰り返し発生することから、ドライブレコーダー映像を加工し事故のポイント、守らなければならないルールを解説することで事故防止に努めています。同僚が起こしている事故ということで身近に感じ、静止画では理解できない事象を体感することで、安全運転への意識向上が図れました。今後も発生した事故事例の動画を共有しさらなる交通事故撲滅を図っていきます。

(3) 安全運転、エコ運転の自覚

ミライトでは工事用車両等でも環境への配慮を積極的に行っており、エコドライブによる急発進、急加速の防止が事故削減へもつながると思い、自分が見られていることで安全運転の自覚を則すことを目的に「エコドライブ・安全運転をしています」ステッカー（ドライバー名入り）を作成し工事用車両に添付しております（図9）。



図7 みまもりメールの事例

5. おわりに

ミライトでは社員、協力会社が一丸となってミライトブランドを誇りに思い「事故ゼロ」を目標に安全で品質の高い企業としてお客さまに信頼されるよう、事故防止に取り組んでいきます。



図8 動画による交通KY研修模様



図9 安全運転ステッカー